

幌延町地域振興(観光)計画の策定に関する 第2回検討ワークショップ 参加者募集



今年度、幌延町では“観光振興”をキーワードに産業振興やまちの賑わいづくりの指針となる『幌延町地域振興(観光)計画』を策定します。この計画に、町民みなさんのご意見を広く取り入れるため、全3回の“検討ワークショップ”を開催します。

幌延町の将来について、一緒に考えませんか？

【応募資格】 町内在住の20歳以上の方

☆第1回目に参加していない方も大歓迎！☆

第1回

現状を共有し、これからを考える

平成28年7月6日(水) 18:30～20:30

場所:幌延深地層研究センター国際交流施設

済

幌延町の“現状”と“これからの姿”について

『①まちの特産品 ②まちの拠点 ③観光によるまちおこし』
をテーマにグループ討議を行いました。

第2回

具体的な“課題”と
“取組み”を考える

平成28年10月28日(金) 18:00～20:00

開催決定！！

今後の“具体的な取組み”について

『①まちの特産品 ②まちの拠点 ③観光によるまちおこし』
をテーマにグループ討議を行います。

第3回【最終回】

計画最終版を確認する

平成29年1月下旬～2月中旬 開催予定

幌延町地域振興(観光)計画【案】について最終確認します。

平成28年10月26日(水)までにお申し込みください

氏名	住所	電話番号	参加希望 グループ
			①～③を ご記入ください。 ()

※応募の際は上の表に必要事項をご記入のうえ、本紙をFAX送信もしくは役場産業振興課企画振興グループ窓口へ提出してください。電話でも受け付けます。

○問い合わせ先及び応募先

幌延町役場産業振興課企画振興グループ

電話:5-1113(内線232～235) / 告知端末機:5-8814 / Fax:5-2971



第1回 ワークショップ開催結果

日時	平成28年7月6日 18:30~20:00
場所	幌延深地層研究センター 国際交流施設1階多目的 ホール
参加人数	34名



各テーブルでは、主に以下のことことが話されました。

まちの特産品

<テーブル人数：9名>

- トナカイの活用（肉や角細工等）
- 幌延の酪農を活用した新たな乳製品の開発
- 雪印メグミルク幌延工場の活用
- 有機野菜産地としてのブランド化
- 山菜を活用したツアー等の実施
- 地元の食材による“本格的な”メニューを富裕層へ提供
- 下沼湧水の活用（ペットボトルでの販売等）

まちの拠点

<テーブル人数：9名>

- お年寄りや町民が気軽に利用できる拠点づくり
- 地元の消費につながる拠点づくり
- カヌーポートやキャンプ場を併設した川の駅づくり
- フットパスなどによる豊富町等との広域連携
- イベント等によるPR（釣り大会、湿原ウォーキング、B級グルメ、乳製品）

観光によるまちづくりA

<テーブル人数：9名>

- サロベツ湿原を活かす取組みの実施（ツアー等）
- WI-FI整備による観光客の利便性向上
- 民泊の活用
- 事故の少ない幌延での安心安全な生活の売り込み
- 防災無線を活用した町民へのPR・周知

観光によるまちづくりB

<テーブル人数：7名>

- 自然環境を活用し、自然工ネルギーのみで生活できる施設整備
- 継続的にしつこくPRを行う
- 問寒別の取組みPR
- 動画やビデオによるPR
- ワンピースのキャラクターチョッパーとのコラボ
- トナカイ観光牧場の子供が遊べる施設化
- 北大研究林の活用
- 鉄道、徒歩、自転車の旅に優しいまち
- 自転車などのスポーツ観光、ヘルスツーリズム
- 道の駅整備
- 鉄道系資産の活用

幌延町地域振興(観光)計画 検討ワークショップについて

平成28年10月28日

幌延町地域振興(観光)計画策定 検討ワークショップ

2. 検討ワークショップの流れ



＜目的＞

幌延町地域振興(観光)計画に一般町民等の意見を広く取り入れるとともに、幌延町地域振興(観光)計画について、理解をして頂くために検討ワークショップを開催する。

3テーマで
これから
の姿を検
討

具体的な
“課題”と
“取組み”
を話す

計画の最
終版を確
認する

平成28年7月6日(水) 午後6時30分～8時30分

実施済

幌延町地域振興(観光)計画の策定についての概要、本ワークショップの位置づけを説明した上で、幌延町の観光等に関わる各種データ分析を説明。その後、『①まちの特産品 ②まちの拠点 ③観光によるまちおこし』のグループに分かれ、“現状”と“これからの姿”をテーマにグループ討議を行う。

平成28年10月28日(金) 午後6時～8時

本日

前回の検討ワークショップの結果や観光客へのアンケート調査結果、町内の観光資源確認調査の結果等を説明。その後、幌延町地域振興(観光)の“課題”と“具体的な取組み”についてグループ討議を行う。

平成29年1月下旬～2月中旬

これまでの検討ワークショップ及び検討委員会における検討の経緯を説明。その後、幌延町地域振興(観光)計画【案】について説明し、確認・承認頂く。最終回はグループ討議は行わない。

2. 第2回ワークショップの実施容



時間	項目	内容
18:00	1. 開会	・開会挨拶
18:05～18:20	2. これまでの調査等について	・これまで実施した調査の概要を説明
18:20～18:30	3. 前回のワークショップ検討結果について	・前回のワークショップ検討結果、今回の検討内容について説明
18:30～19:30	4. グループ討議	<p>・テーブル(『①まちの特産品 ②まちの拠点 ③観光によるまちおこし』)に分かれて討議 ・進行役(ファシリテーター)、decが各テーブル担当</p> <p style="text-align: center;">～ワークショップの進め方～</p> <p>①グループごとに自己紹介【2分】 →地域の方はお互いを知っているかもしれません、初対面の方もいるかもしれませんので、幌延町の好きなところと一緒に簡単に自己紹介して下さい。</p> <p>②「発表役」を決める【3分】 →テーブルからの全体発表を行う発表者を選出しましょう。</p> <p>③各テーマの“具体的に何をしたら良いか”“その課題は何か”を考え付箋に書き、模造紙に貼ってもらう【30分】 →模造紙にそれぞれ貼ってもらい、それぞれの付箋の内容についてお話し頂き、グループングする。</p> <p>④具体的な取組みに対して“役割分担”について、貼ってある付箋をみながら検討【15分】 →模造紙に貼った付箋を見ながら、住んでいる人、訪れる人、どちらにとっても“良い”幌延町を視点に、各テーマの“今後の方向性”について討議し、整理する。</p> <p>⑤各テーブル検討結果のまとめ【10分】 →テーブルの検討結果について整理します。</p>
19:30～19:45	5. 各テーブルからの発表	・各テーブルから代表者がテーブル討議について発表。
20:00	6. 閉会	



2. これまでの調査等について

＜幌延町地域振興（観光）計画の目的＞

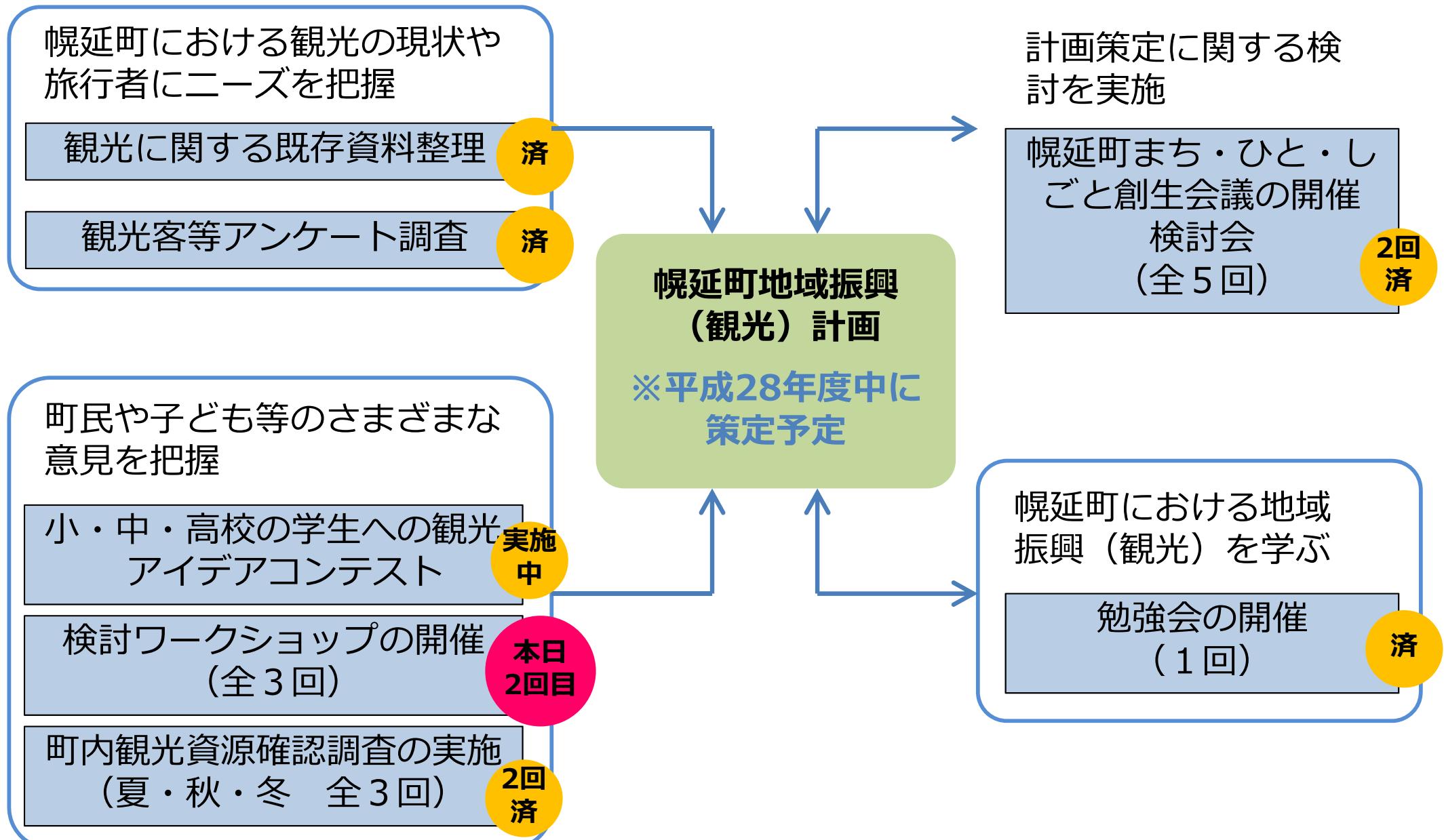
- 幌延町は平成22年4月に宗谷管内に再編され、同年に幌富バイパスが開通。平成31年頃には天塩大橋の架け替えとともに、幌富バイパスの取り付け道路が完成する予定。
- 平成24年度における幌延町の観光入込客数は約12万人で、これを平成31年度までに13万人（総合計画）、また、トナカイ観光牧場入場者数を5万人（総合戦略）、鉄道関係観光入込客数を5百人に増やすことを目標としている。
- 昨年度から観光大使や秘境駅を活用した観光振興の取組みを展開するほか、有名人を招聘したセミナー等も開催している。



天塩大橋の架け替えにより、宗谷地域を訪れるレンタカー観光客等の道路利用者の移動経路が大きく変わることが想定されるため、これを契機に、幌延町の観光振興を図るため『幌延町地域振興（観光）計画』を策定する。

2. これまでの調査等について

＜幌延町地域振興（観光）計画策定に関する調査等＞



2. これまでの調査等について

第1回 幌延町まち・ひと・しごと創生会議 「幌延町地域振興（観光）計画」検討会

日時：平成28年6月22日（水） 午後6時30分～
場所：幌延深地層研究センター国際交流施設

第2回 幌延町まち・ひと・しごと創生会議 「幌延町地域振興（観光）計画」検討会

日時：平成28年6月14日（金） 午後6時30分～
場所：幌延深地層研究センター国際交流施設



第1回 検討ワークショップ

日時：平成28年7月6日（水） 午後6時30分～
場所：幌延深地層研究センター国際交流施設



2. これまでの調査等について

観光資源調査（夏期）

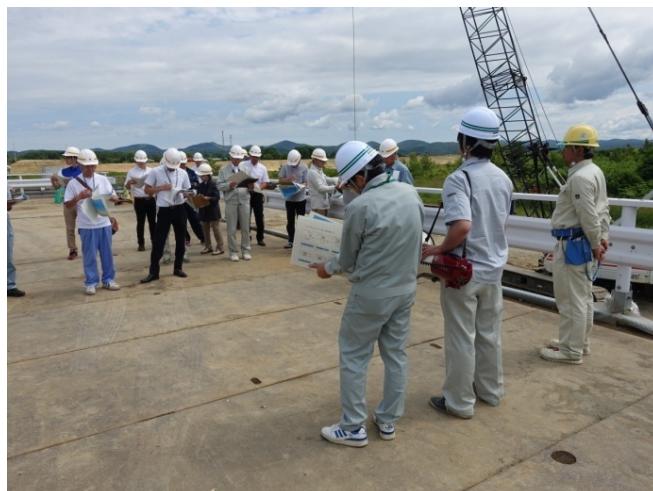
日時：平成28年7月21日（木） 午前10時～午後3時30分

調査箇所

天塩大橋の架け替え現場／トナカイ観光牧場（昼食含む）

オトンルイ風力発電所／幌延ビジターセンター

下沼湧水／パンケ沼 ※午後は自転車調査班有



幌延町の観光に関するアンケート調査

日程：平成28年8月13日（土）

～8月14日（日）

場所：名林公園まつり会場

トナカイ観光牧場

幌延ビジターセンター



2. これまでの調査等について

小・中・高校生への観光アイデアコンテスト

「おいでよ！ほろのベアイデアコンテスト」

応募資格：幌延町在住の小学生・中学生・高校生

締め切り：現在、追加募集中

応募内容：イラスト、作文、レポート

表彰：・グランプリ／・準グランプリ

・ブルピー賞（審査員特別賞）



觀光資源調查（秋）

日時：平成28年10月22日（土）午前9時～午後2時

調査箇所

糠南駅／北大天塩研究林／知駒／問寒別駅／車窓からの風景等



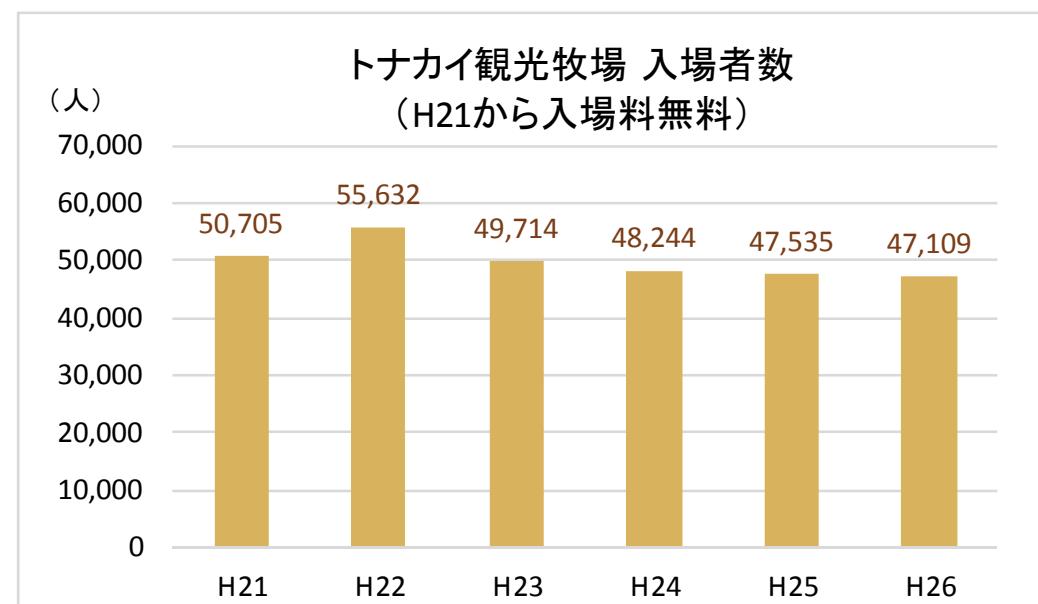
2. これまでの調査等について

＜調査結果の概要＞

①観光入れ込み客数

地域	年度	外国人客 (宿泊延数／人)	道外客 (千人)	道内客 (千人)	入込総数 (千人)
北海道	H18	1,766,650	45,510.6	94,917.5	140,428.1
	H22	2,365,161	39,530.6	89,256.1	128,786.7
	H26	4,701,023	40,559.2	92,874.6	133,433.8
稚内市	H18	6,076	355.9	318.1	674.0
	H22	5,324	323.5	177.7	501.2
	H26	11,675	348.8	133.7	482.5
幌延町	H18		50.2	55.7	105.9
	H22	18	58.8	66.7	125.5
	H26	0	53.7	58.9	112.6

②トナカイ観光牧場入場者数



- 北海道の平成26年度宿泊延べ数は133,434千人。外国人は約470万人。
- 稚内市の平成26年度宿泊延べ数は483千人。外国人は約12万人。
- 幌延町はH26年度は延べ宿泊者数が113千人。外国人は0人。H22年に125千人となり、その後減少傾向。宗谷管内で中頓別町の次に少ない。

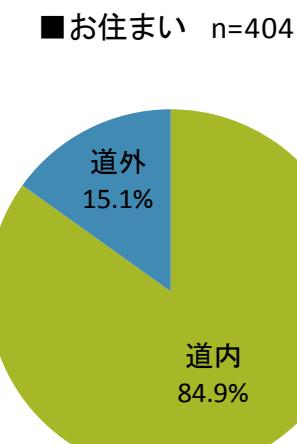
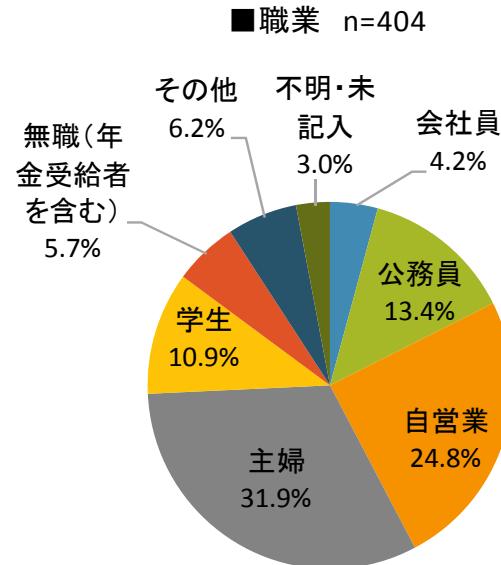
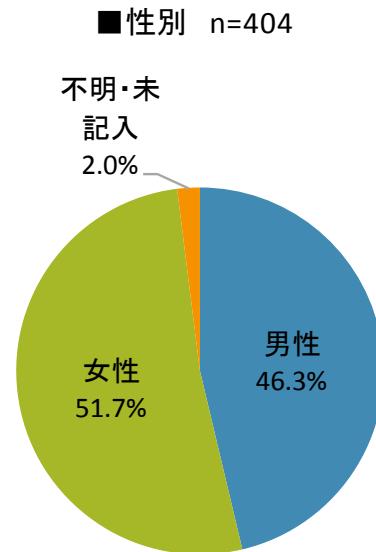
- トナカイ観光牧場は、平成21年に入場料無料となり、平成22年に55千人、平成26年は47千人と減少傾向。

※なお入場料有料の最終年となったH20年入場者数は約6,800人であった。

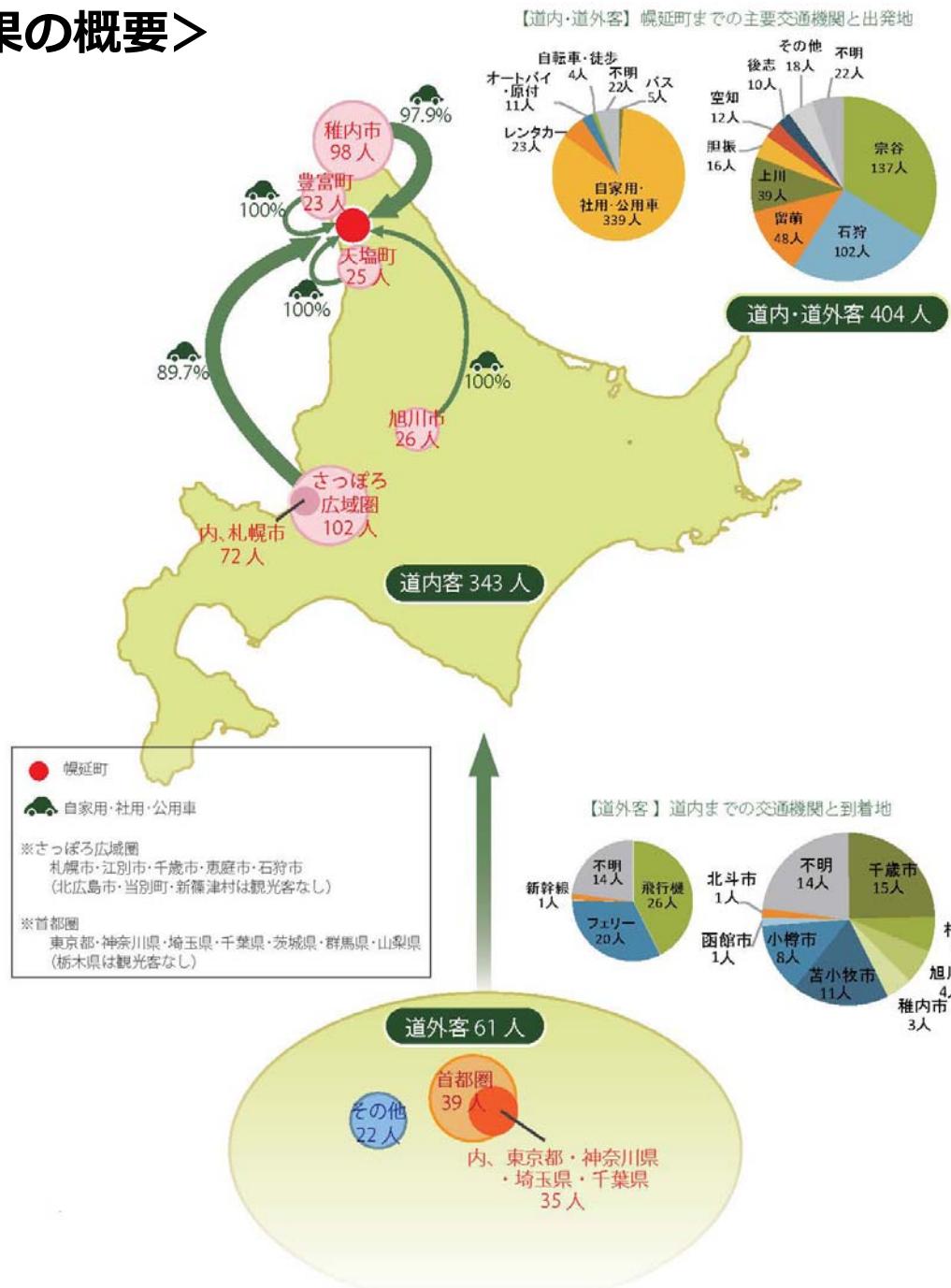
2. これまでの調査等について

＜調査結果の概要＞

③幌延町の観光に関するアンケート調査



- 男性女性が半々。40代・30代が半数以上。会社公務員が半数。84%が道内。
- 稚内などの近隣と札幌から多くの方が訪れている。本州は関東・首都圏が半数以上。
- ほとんどの方が車で訪れている。

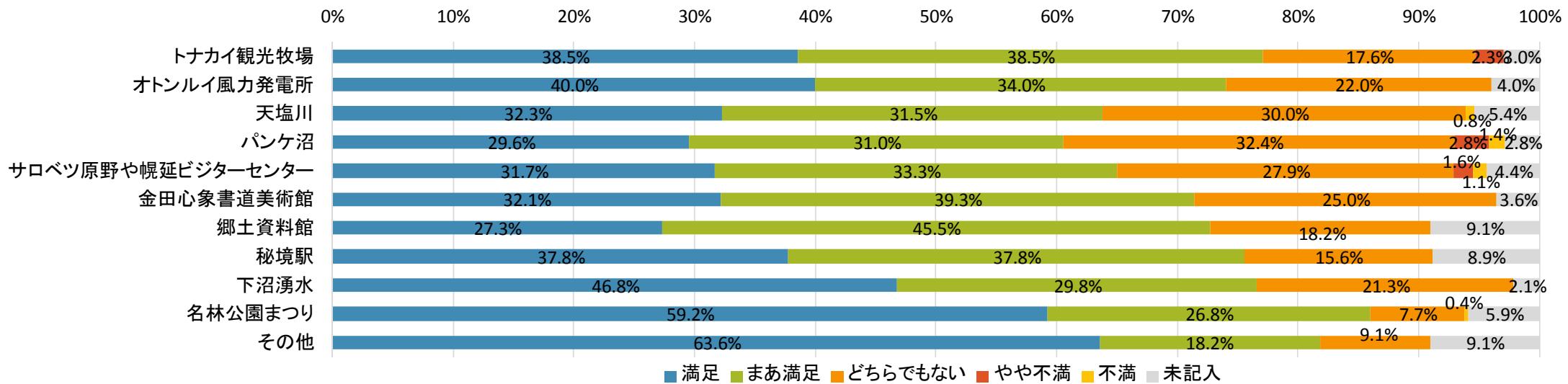


2. これまでの調査等について

＜調査結果の概要＞

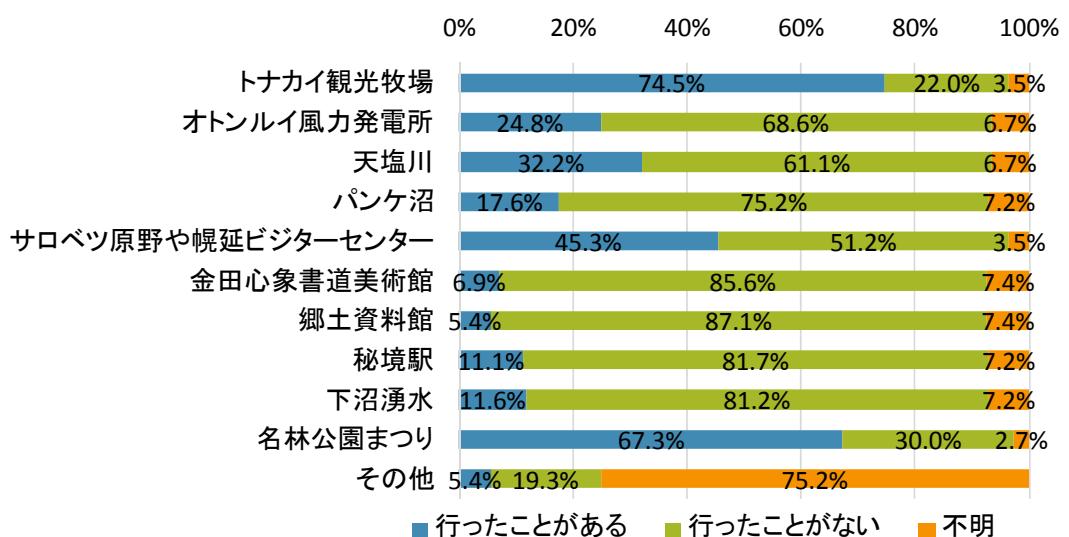
③幌延町の観光に関するアンケート調査

■これまでに立ち寄った施設の満足度(行ったことがある人)



- 立ち寄り箇所の満足度は、名林公園まつりが最も高く、次にトナカイ観光牧場、オトンルイ風車群。
- トナカイ観光牧場は7割以上の方が訪れており、名林公園まつりは67%の方が訪れている

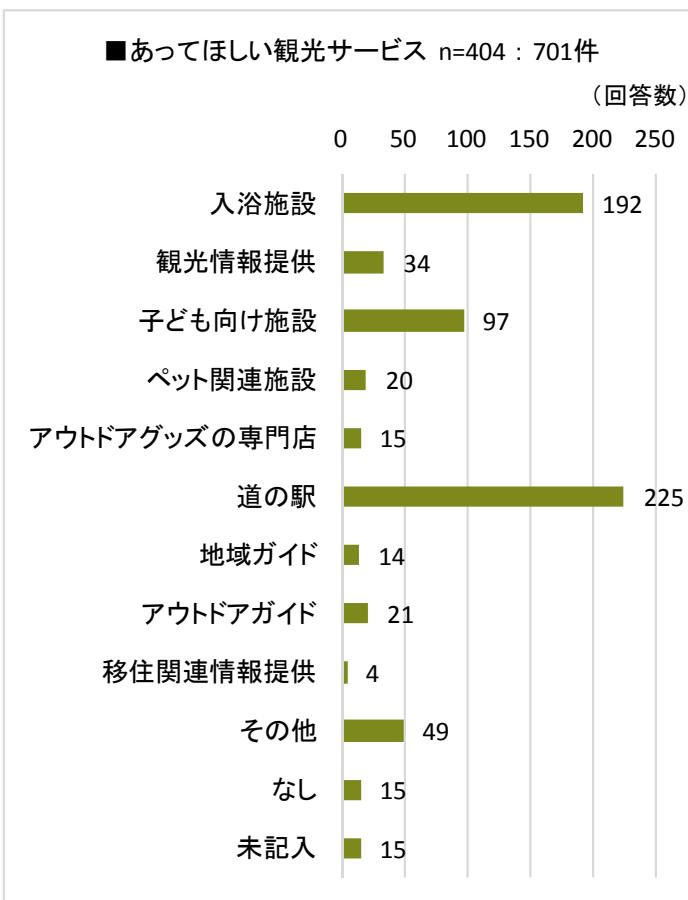
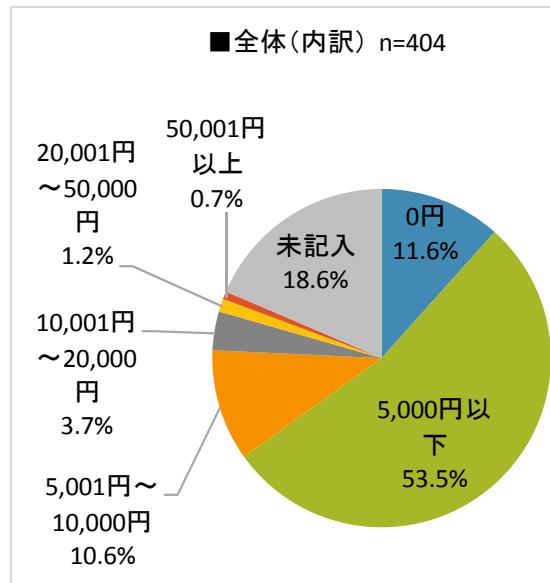
■これまでに立ち寄った施設 n=404



2. これまでの調査等について

＜調査結果の概要＞

③幌延町の観光に関するアンケート調査



- 消費額は5,000円以下。
- あってほしい観光サービスは、道の駅が最も多く、次に入浴施設。
- 幌延町の魅力としては、トナカイが最も多く、次に自然が豊富・きれいであった。
- まちのにぎわい創出としては、イベントの実施が最も多く、次にトナカイ牧場の充実、子供向けの施設、道の駅であった。

■幌延町の魅力(自由複数回答) n=356 : 451件 (回答数)



2. これまでの調査等について

＜調査結果の概要＞

④現地資源（夏期）

場所名	項目	とても評価が高い	評価が高い	どちらとも言えない	評価が低い	とても評価が低い
トナカイ観光牧場	受入環境	7%	0%	29%	57%	7%
	情報発信	0%	7%	36%	50%	7%
	お勧め度	0%	14%	43%	36%	7%
	幌延らしさ	29%	29%	21%	21%	0%
	食事	15%	54%	31%	0%	0%
	総合評価	0%	8%	77%	15%	0%
オトンルイ風車発電所	受入環境	14%	4%	43%	21%	14%
	情報発信	7%	0%	43%	36%	14%
	お勧め度	29%	43%	21%	0%	7%
	幌延らしさ	43%	36%	21%	0%	0%
	総合評価	7%	43%	43%	7%	0%
幌延ビジターセンター	受入環境	21%	43%	36%	0%	0%
	自転車受入環境	0%	100%	0%	0%	0%
	情報発信	15%	31%	38%	15%	0%
	お勧め度	7%	57%	29%	7%	0%
	幌延らしさ	14%	57%	21%	7%	0%
	総合評価	8%	54%	38%	0%	0%
JR下沼駅	受入環境	0%	38%	31%	31%	0%
	自転車受入環境	0%	0%	0%	33%	67%
	情報発信	0%	23%	54%	23%	0%
	お勧め度	0%	38%	54%	8%	0%
	幌延らしさ	23%	54%	15%	8%	0%
	総合評価	0%	33%	58%	8%	0%

場所名	項目	とても評価が高い	評価が高い	どちらとも言えない	評価が低い	とても評価が低い
下沼湧水	受入環境	0%	31%	46%	23%	0%
	自転車受入環境	0%	33%	33%	33%	0%
	情報発信	8%	15%	31%	46%	0%
	お勧め度	23%	46%	31%	0%	0%
	幌延らしさ	23%	46%	31%	0%	0%
	総合評価	0%	62%	38%	0%	0%
下沼湧水	受入環境	0%	8%	23%	38%	31%
	自転車受入環境	0%	0%	0%	33%	67%
	情報発信	0%	8%	46%	31%	15%
	お勧め度	15%	15%	31%	23%	15%
	幌延らしさ	31%	8%	38%	8%	15%
	総合評価	0%	31%	46%	8%	15%

- 14名参加。9割が男性。50代と60代が6割。会社員が6割以上。
- トナカイ観光牧場は、花壇や花の看板、雑草取りなど等の施設整備が必要。トナカイと触れあえるイベントの開催。
- オトンルイは、景観や迫力はすごい。見る以外の楽しみが無い。
- 幌延ビジターセンターはガイドや案内など活用の方法を検討する。
- JR下沼駅は、鉄道好きには十分観光資源となる。
- 下沼湧水は、観光資源として活用の可能性があるが、水質検査や情報発信等の課題もある。
- 木道等の補修や砂利道の舗装、草刈り等の整備が必要。夕暮れ時等美しい時もある

2. これまでの調査等について

＜調査結果の概要＞

⑤現地資源（秋期）

場所名	項目	とても評価が高い	評価が高い	どちらとも言えない	評価が低い	とても評価が低い
車窓からの風景【行き】	風景の評価	25%	38%	38%	0%	0%
	お勧め度	0%	33%	56%	11%	0%
	幌延らしさ	22%	56%	11%	0%	11%
	総合評価	13%	38%	50%	0%	0%
糠南駅	受入環境	27%	9%	45%	18%	0%
	情報発信	36%	36%	27%	0%	0%
	お勧め度	18%	45%	18%	18%	0%
	幌延らしさ	64%	9%	27%	0%	0%
	総合評価	27%	27%	45%	0%	0%
北大天塩研究林原生林	観光可能性	42%	42%	17%	0%	0%
	お勧め度	50%	17%	33%	0%	0%
	幌延らしさ	58%	33%	8%	0%	0%
	総合評価	50%	17%	33%	0%	0%
問寒別駅	受入環境	50%	50%	0%	8%	0%
	情報発信	58%	33%	0%	8%	0%
	お勧め度	8%	67%	17%	8%	0%
	幌延らしさ	17%	67%	17%	0%	0%
	総合評価	25%	17%	33%	0%	0%
車窓からの風景【行き】	風景の評価	25%	17%	33%	0%	0%
	お勧め度	0%	25%	63%	13%	0%
	幌延らしさ	38%	25%	25%	0%	13%
	総合評価	0%	38%	50%	13%	0%

- 13名が参加。全員男性。
- はじめて北大天塩研究林を見たが、とてもよかったです。専門的な知識を有している人がガイドすることが必要。ガイドがいるといないとでは全く違うと思った。
- 小規模で長期滞在する観光を確立し、長期滞在の中で酪農体験や北大天塩研究林のガイドツアーを提供できると良いのではないか。
- 山や自然が好きな人も、いろいろな嗜好があるためそれぞれの嗜好にあわせたプログラムが必要。また、自然体験については子どもには、宝探し等、楽しむ工夫が必要。
- 知駒岳のビューポイントはいつでも、だれでも楽しめるようになれば良い。
- 問寒別の駅は地域の人がしっかりと管理し、大切にされていることがわかった。
- イトウ釣りに来る人は、かなりいるようだ。

2. これまでの調査等について

＜幌延町まち・ひと・しごと創生会議「幌延町地域振興（観光）計画」検討会結果の概要＞

＜第1回 検討会 結果概要＞

- ・鉄道系観光客入れ込み数の目標を高く設定する。
- ・パンケ沼の夕日は美しい。野鳥や花も多く、豊富とは違った生態が楽しめる。豊富との連携も必要。
- ・冬のイベントが無く、冬期の賑わいが無い。
- ・フィルムコミッショナも活用できるのではないか。
- ・地域食材を使ったご当地グルメ、B級グルメを考える。
- ・名林公園を名水公園とし、ホタルやアイスキャンドルが楽しめる拠点にする。防災時も強い。
- ・稚内に来ている旅行者をスタンプラリーなどで誘導する。
- ・トナカイ観光牧場、ノースガーデンは整備が必要。町民からの協力も得られれば良い。

＜第2回 検討会 結果概要＞

- ・まず何かやってみるのがよいのでは。町内でフリーマーケット等を開催してみてはどうか。
- ・道の駅については、そこに停まった人たちを町の中へ呼ぶ導線が重要と思う。
- ・バイパス付近に、道の駅と併せて川も駅も作るとよいのでは。
- ・道の駅ができるのであればアイス等を売れるとい。町内の酪農家でアイスを売れる人も多い
- ・最近のトナカイ牧場は雰囲気も良くなり、若い人も行けるのではないか。
- ・他の町村にないトナカイ牧場というカードを持っているが、生かしきれていない。
- ・合鴨は町内で使われているが、トナカイ肉の缶詰はほとんど売られていない。
- ・町の観光大使の井上仁志さんをもっと活用できなか。
- ・幌延市街地方面に資源等が多いため、問寒別方面の魅力等を掘り起こしていきたい。
- ・子供には親が付いてくるので子供をターゲットとするのもよいと思う。

3. 前回のワークショップ検討結果について

①目的

幌延町地域振興（観光）計画に一般町民等の意見を広く取り入れるとともに、幌延町地域振興（観光）計画について、理解をして頂くために検討ワークショップを開催。

②日時

平成28年7月6日 18:30～20:00

③場所

幌延深地層研究センター国際交流施設1階多目的ホール

④参加人数 34名（参加者名簿 右記）



まちの特産品

花室さん	高橋（考）さん
小田島さん	卯子澤さん
長濱さん	遠藤さん
岡本さん	若月さん
高城（春）さん	

まちの拠点

藤原さん	小部さん
久保田さん	西澤さん
丸田さん	中野さん
越後谷さん	佐藤さん
山田さん	

観光によるまちづくりA

大内さん	林さん
高橋（秀）さん	吉原さん
畠山さん	小室さん
黒田さん	伊山さん
高城（織）さん	

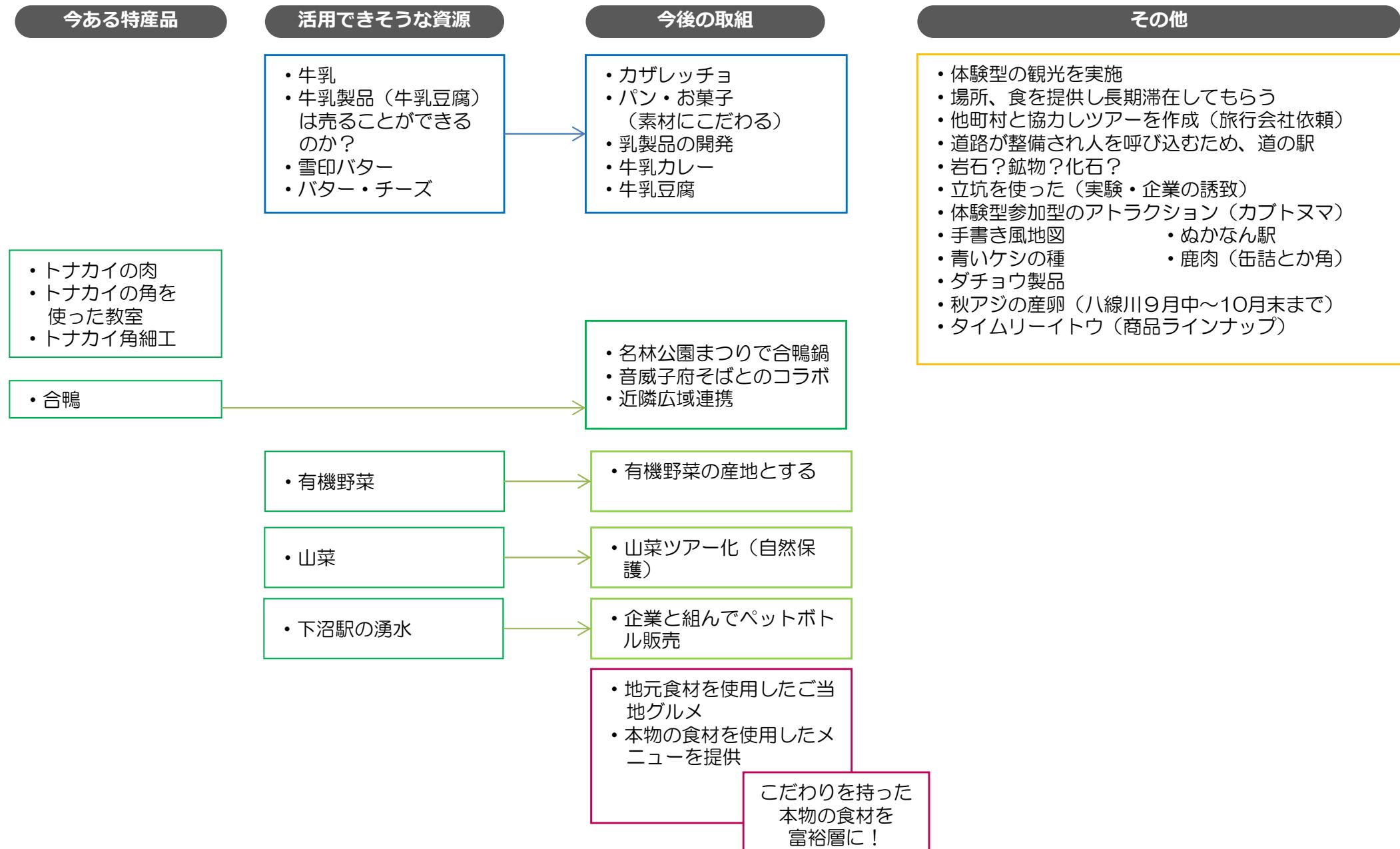
観光によるまちづくりB

村上さん	鏑木さん
青柳さん	豊川さん
山下さん	星野さん
藤井さん	

3. 前回のワークショップ検討結果について



3. 前回のワークショップ検討結果について



3. 前回のワークショップ検討結果について

・トナカイ観光牧場

・幌延ビジターセンター

・天塩川

・深地層研究センター

・幌延駅

・道路が多方面にのびている

・パン屋（まちなかの）

現状は？いいところは？

食事もいい
ブルーポピー
家族が来られる
花がいっぱい
ライダーも来ている
木道の整備がmust
クマよけのすす
ガイドがいるとOK
自然が多い（川・山・星）
カヌーができる
立派なパークゴルフ（公園）がある
冬の除雪がきれい（雪山がない）

・道道106号

・役場

・南沢町営牧場

・秘境駅

・観光施設がPR不足！

○心象館

・名物が必要！

○トナカイ牧場

課題は？

景色がいい、もっと生かせる！（もったいない）
観光客が役場に来る → 案内拠点があれば...
立ち入り禁止？
廃駅にならない？
金田先生知ってる？アピール不足
ケシは貧相。トナカイだけではNG。名物が必要。
立地が悪い

今後の方向性はどうする？

・町民の観光客を受け入れる体制が整っていない
・ソフトが重要、ハードは駐車場+トイレ+シャワー

・こんな拠点が...

○お年寄り（町の文化を持つてある人たち）と交流できる場
○息抜きのできる場所がほしい
(子育て中の女性が同じ環境の人・先輩と交流できる場)

- ・拠点はマチにほしい！（中心商店街）
- ・拠点は中心商店街が理想、正し導線が必要
- ・動線を意識した新たな拠点づくり
- ・拠点とは、ある目的を果たすために人が集まるところかな
→人が集まる仕掛けが必要！まずやってみる！
(フリーマーケット、マクドナルドと売る仕掛け)

・地元の観光客も利用する拠点を！

○川の駅をつくる
(カヌー、ソフトクリーム、キャンプ場、特産)

○道の駅
道の駅があれば名産品を置ける、川の駅（カヌー）と
併せればいいのでは？
↓

・広域連携

○なにかできる。天塩豊富はフットパス。
ヒトでの情報交換をやっている
○ふっとバスコースがあれば...

・地元も観光客も利用する拠点を！

○まちの人があつてよかったと思えるもの
そこに観光客は集まる！
○町民が町内で楽しめないと外からのお客さんは来ない！

・PR！

○イベント開催（釣り大会、湿原ウォーキング）
○B級グルメ（合鴨丼、幌延牛乳）
○食べ物（名物）
○乳製品作る！

3. 前回のワークショップ検討結果について

知名度・PR・情報発信	町のイメージを高めるもの (問題あり) トナカイ牧場見るところがない トナカイのイメージ トナカイは問題あり (食として安定してない) ブルーボビーが残念な状況 ブルーボビー不作 ブルーボビーの栽培が困難な花というが、何とか少しの家庭でも育てられるよう町民フルーポピーみたことない?!	分かりにくい 導線ががない サロベツ湿原センター5万人/年
知名度・PR・情報発信	幌延の名前が広がる方法 が必要 町全体の商工業を町が 一括的にPRする 知名度が低い 自然が豊富なのにPRが うまく出来ていない 幌延バター、名前変え ちゃつた? 他の町(国内外)の人たち との交流で知名度を上げ ては? 他の市町村(国内)や国外 との交流が見えない	幌延の名前が広がる方法 が必要 町全体の商工業を町が 一括的にPRする 知名度が低い 自然が豊富なのにPRが うまく出来ていない 幌延バター、名前変え ちゃつた? 他の町(国内外)の人たち との交流で知名度を上げ ては? 他の市町村(国内)や国外 との交流が見えない

目指す観光のまちとは?	地域特性を踏まえた、幌延の目指す観光とは? 通年観光につながらない(投資に対する不安) 通年観光を目指す?ターゲットはどこ? 通過型の観光	経済効果 観光客は来ていると思う。その方々にお金を使ってもらう仕組みが弱い気がする 商工業の活性化が観光のまちおこし
-------------	--	--



もうかる目線	サロベツ湿原を活かす取り組み(ツアーナビ)をしているか
来る人目線	Wi-Fi環境を作る 民泊の活用は?
住民の目線	安心目線(事件事故の少ない町で安心に過ごす) 町内無線を使って町民PR

3. 前回のワークショップ検討結果について

現状・課題	提案
<p>・幌延の景色がいい ・時期・時間によって奇跡的な風景がある ・原野・展望台からの風景 ・道路まっすぐ ・オトシリ風力発電。都会の人に受けける ・シカ。本州等の人には感動的。事故。農業被害 ・幌延の自然に触れるイベントがない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・風力・太陽光のみで生活体験ができる施設を
<p>自然</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・PR力、発信力を強化 ・飲食店のアピールが弱い ・酪農業、ブランド化できるか？ ・(豊富町と併せてサロベツにする？) ・冬のイベントが寂しい、以前のように町民が参加できる ように出来ないか ・観光協会 ・幌延の認知度低い、いいところあるのに 幌延は見るところがない。考えると自然がいっぱいでも つたいない。 ・魅力を感じる商品が少ないと乳製品 ・ボランティアなどの人手不足。忙しい？無用心？ ・幌延の良さが知らない。滞在型も。 ・体験型観光がない。滞在型も。 ・ガイド観光ない ・お土産がない、一応幌延クッキーを買っている。 ・フルーポピー、今までちつたない。 ・もっと力を入れたほうがいいのでは。 ・地元住民が魅力に純感？！
<p>観光戦略</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・PRビデオ、動画 ・継続性。しつこさ。 ・1点かけではなく複数ある方がいい ・間寒別の方々のアピール、釣りクラブ、 屋食交流会、ふるさと納税のことを町民にアピールしては ふるさと納税のこと
<p>観光施設</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆめ地層館。今だに処分施設だと誤解されている ・ビジターセンター、景観は良い。 豊富より目立てるか？ ・施設がきれい ・トナカイ観光牧場付近の散策路。自然すぎる。 ・トナカイ牧場、ノースカーテンの移転とリニューアル。駅からのアクセス方法の検討。 ・観光案内所がない ・体験交流型なし ・百合が原公園のようすに、トナカイ牧場で。 隣町や近隣町にあるものがない。温泉、パン屋、百貨店、 ケーキや、ソハ屋、ホームセンター、ワークショップ
<p>観光コンテンツ (体験型)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進められる観光施設がトナカイ牧場のみ ・観光地（雑誌に紹介されるような）ところがない ・深地層研究所の地下350m体験を気軽に ・サロベツ原野実活用。アピール。 ・チャンフ場いまいち ・温泉駅に訪れる人が多いのに驚き ・カヌーポート。カヌー貸し出し？ ・マラソンイベントで50人くらい集まる ・下沼、名山台の湧水、公園化 ・間寒別釣りクラブ ・お店に共通した食べ物があつたら…
<p>交通</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・交通機関の本数が少ない ・稚内までの間でどうしてもカットしてしまう町 ・バスは景色がよくない ・市街地と国道が離れている ・魅力を感じる鉄道車両が少ない ・ついつい車のスピードが… ・秘境駅、先進性を発揮している。 ウオーキング、サイクリング等との連携でアクセスの問 題を解決できるか？ ・稚草が茂って利尻富士が見えづらい ・冬は吹雪で運転しづらそう ・自転車、バイクのツーリングはオロロンラインを通る

3. 前回のワークショップ検討結果について

テーマ	概要													
まちの特産品	<p><特産品の方向性></p> <ul style="list-style-type: none">幌延で生産される“こだわりを持った本物食材”を“本格的なメニュー”に <p><既存特産品のさらなる活用></p> <table border="1"><tr><td>トナカイの活用</td><td>トナカイ肉の活用 角を使った加工品づくり（角細工）</td></tr><tr><td>合鴨の活用</td><td>名林公園まつり等で広く周知 連携によるメニュー開発（音威子府そばとコラボ）</td></tr></table> <p><活用できそうな資源></p> <table border="1"><tr><td>牛乳</td><td>新たな乳製品の開発 牛乳豆腐の特產品化 既存のお店等での利用（パンやお菓子での活用） 一般的なメニューでの活用（牛乳カレー）</td></tr><tr><td>有機野菜</td><td>生産地として確立</td></tr><tr><td>山菜</td><td>体験型観光ツアーとして活用</td></tr><tr><td>下沼湧水</td><td>企業と組んでペットボトル商品化</td></tr></table>		トナカイの活用	トナカイ肉の活用 角を使った加工品づくり（角細工）	合鴨の活用	名林公園まつり等で広く周知 連携によるメニュー開発（音威子府そばとコラボ）	牛乳	新たな乳製品の開発 牛乳豆腐の特產品化 既存のお店等での利用（パンやお菓子での活用） 一般的なメニューでの活用（牛乳カレー）	有機野菜	生産地として確立	山菜	体験型観光ツアーとして活用	下沼湧水	企業と組んでペットボトル商品化
トナカイの活用	トナカイ肉の活用 角を使った加工品づくり（角細工）													
合鴨の活用	名林公園まつり等で広く周知 連携によるメニュー開発（音威子府そばとコラボ）													
牛乳	新たな乳製品の開発 牛乳豆腐の特產品化 既存のお店等での利用（パンやお菓子での活用） 一般的なメニューでの活用（牛乳カレー）													
有機野菜	生産地として確立													
山菜	体験型観光ツアーとして活用													
下沼湧水	企業と組んでペットボトル商品化													

3. 前回のワークショップ検討結果について

テーマ	概要
まちの拠点	<p><多様な方が集まる拠点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・お年寄り ・子育て中の女性など同じ環境の方 ・町民が楽しめる ・観光客 ・カヌーやキャンプ愛好家（道の駅に川の駅併設） <p><地域活性化の拠点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・町中に拠点を整理 ・町に人が流れ、町が元気になる導線の確保 <p><人があつまる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・フリーマーケット等、人が集まる仕掛け ・ソフトクリームなどの特産品が集う拠点
観光によるまちづくり	<p><観光まちづくりのキーワード></p> <ul style="list-style-type: none"> ・テツ（鉄道）、トホ（徒歩）、チャリ（自転車）旅に優しい町づくり ・北大研究林やサロベツ湿原、パンケ沼などを活用した健康・スポーツツーリズム ・観光による“儲かる”仕組み <p><取組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊キャパを増やす民泊活用の可能性 ・ブルーポピーを売り出している北欧の町との姉妹都市 ・トナカイ観光牧場の活性化（ワンピース チョッパーとのコラボ、子供が遊べる施設への整備） ・秘境駅等の鉄道系資産の効果的な活用 <p><PR></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビデオや動画によるPRの強化（釣りクラブ、ワラベンチャーなど問寒別のPR強化） ・事故や事件が少ない安心安全な町での生活 <p><ハードの整備></p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時にも活用できる移住体験施設や再生可能エネルギーで生活体験できる施設の整備 ・道の駅の整備 ・Wi-fiの整備 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光まちづくりの主導者・リーダー不足

4. 検討ワークショップとは



○ ワークショップとは

- 『ワークショップ』とは、あるテーマについて、多くの人たちの意見を出し合う、市民参加型の会議手法です。
- できるだけ多くの参加者から、いろいろな視点での意見をもらうことを狙いとしています。（グループに分かれる理由）

★5~6名程度の少人数のグループに分かれ、グループごとに議題について意見やアイデアなどを出し合います。

★グループ討議では、リーダー・進行役が中心となり議論を進め、出された意見やアイディアなどを取りまとめます。

★出された意見は、それぞれ付箋などに記録し、項目やテーマなどに分類しながらまとめます。

★グループ討議終了後、各グループでの意見について、全体で共有するため、グループごとに発表をします。

★最後に各グループでの意見を全体で取りまとめ整理します。



5. ワークショップの注意点

○ワークショップ3つのルール（注意点）



自分の意見は
手短に話しましょう

少数で議論しているとはいえ、できるだけ多くの意見を出し合い、共有するために、できるだけ手短に話をしましょう。

他の人の意見は
しっかりと聞きましょう

議論を深め、様々な視点からより良い話し合いとするため、他の人の意見をしっかりと聞きましょう

他の人の意見を否定しないようにしましょう

一見違うように思える意見も発展させたり、背景や理由を考えたりすると意外に共通点があつたりします。他の意見はむしろ発展させたり、相乗りして、より良いアイディアに発展させましょう。

6. ワークショップ検討内容について

グループ分け

①まちの特産品

②まちの拠点

③観光によるまちおこし

ワークショップの確認

18:30～

- ①グループごとに自己紹介
- ②「発表役」を決める

18:35～【30分】

- ③各テーマの“具体的に何をしたら良いか”“その課題は何か”を考え付箋に書き、模造紙に貼ってもらう

19:05～【15分】

- ④具体的な取組みに対して“役割分担”について、貼ってある付箋をみながら検討

19:20～【10分】

- ⑥テーブル検討結果のまとめ

7. ワークショップ検討の視点

検討の視点

①まちの特産品

- ①既存の特産品活用（トナカイ・鴨肉）
- ②新たな特産品の開発（牛乳）

②まちの拠点

- ①観光客と町民が集う拠点の機能
- ②町の活性化・ゲートウェイとなる拠点
- ③川の駅やキャンプ等 多機能な拠点

③観光によるまちおこし

- ①トナカイ観光牧場等の既存観光ポイントの磨き上げ・活性化
- ②サロベツ湿原や北大演習林等の自然資源を活用した体験型観光
- ③鉄道系資源や自転車等の新たなツーリズムの創出